

JA女性 フレッシュミズ組織 設置・活性化の 手引き



JA全国女性組織協議会



全国農業協同組合中央会

はじめに

JA女性組織は、令和元年度よりJA女性組織3カ年計画「JA女性 地域で輝け 50万パワー☆」の中で、「次代のリーダーを育成し、全組織でフレミズ組織を設置します」と掲げ、取り組みをすすめています。また、JAグループも、第28回JA全国大会で「すべてのJAで次代のリーダー育成のため、フレッシュミズ組織を設置します」と決議し、若い世代との関係づくりをすすめることとしました。

令和元年8月現在、フレッシュミズ組織は全国に31都道府県、353組織あり、15,577人のメンバーがいます。JA女性組織はこれまでもフレッシュミズ組織の仲間づくりに取り組んできましたが、今まで以上に地域の若い女性を取り込み、仲間の輪を全国に広げることが求められています。

フレミズ組織の設置や活性化に、組合員組織事務局が果たす役割は非常に大きいものがあり、事務局の努力がなければ、仲間づくりは進まないと言っても過言ではありません。

この冊子は、日ごろフレッシュミズ組織の設置や、その後の育成に取り組んでいるJA女性組織事務局の方々へ、活動のヒントとなるように作成しました。各地の事例を交え、実践的な内容とすることで、理解しやすくなるよう心がけました。また、本冊子をきっかけに、各地のJAに連絡を取るなど、事務局のネットワークが広がってほしいとの願いもあります。全国のフレッシュな仲間づくりに、積極的な取り組みを期待しています。

令和2年6月

はじめに

1. フレッシュミズ組織とは

- (1) 世代別の組織です..... 1
- (2) さまざまな形で組織されています..... 2

2. 組織づくりに取り組む理由

- (1) JAがフレミズ組織づくりに取り組む理由..... 3
- (2) JA女性組織がフレミズ組織づくりに取り組む理由..... 5

3. たちあげよう

- (1) まずはJAの存在をアピール..... 7
- (2) JAの利用から組織活動へ参画..... 8
- (3) 「役」の振り方..... 9
- (4) 計画づくりは楽しく、ひと工夫を..... 10

4. あつめよう

- (1) 夏休み、冬休みは絶好のリクルート期間..... 11
- (2) 「JA女性大学」は人材の宝庫..... 12

5. もりあげよう—各地の事例から—

- (1) 長崎県JA長崎せいひ..... 13
- (2) 長崎県JAながさき県央..... 14
- (3) 島根県JAしまね..... 15

6. JA女性組織の活性化に向けて..... 17

地域で輝くための5つの具体的活動..... 19

むすびに

フレッシュミズ組織とは

1 世代別の組織です

「フレッシュミズ」という言葉を聞いて、どんな人たちが思い浮かびますか。フレッシュミズ組織（グループ）には、さまざまな女性が集まっていますが、ここでは「JA女性組織の中で食や農業に関心を持つ、おおむね45歳くらいまでの女性たちが集まってできた組織」とします。

フレッシュミズの源流は、1971年に設置された専門委員会で「若妻の加入を促進し、若妻にとって魅力のある活動を積極的に行わなくてはならない」とされたことにあります。「若妻会」と呼ばれていた名称は、「フレッシュミセス」の名称を経て、現在は「フレッシュミズ（フレミズ）」と呼ばれています。「若妻」「ミセス」といった言葉からもわかる通り、以前は既婚女性の集まりでしたが、現在は独身女性のメンバーも多数在籍しています。また、JAを拠りどころにした組織ですから、農家の女性を中心となっていますが、農業にはまったく携わったことがないかたも多く、むしろフレミズ活動を体験することで農業の魅力に気付いた、という方もいます。

活動は多岐にわたり、料理教室や農業体験、加工品づくりなど、多彩な活動に取り組んでいます。フレミズメンバーは子育て世代であることが多いため、親子で参加しやすいよう託児対応を取り入れる組織が増えています。子どもを健康に育てるために、「安全な食」に力を入れている組織が多いことも特徴のひとつです。

フレッシュミズ組織数とメンバー数

	JA女性組織	フレッシュミズ	割合
組織数	625	353	56.5%
メンバー数	519,432人	15,577人	3.0%

※JA全国女性協調べ(令和元年8月現在)

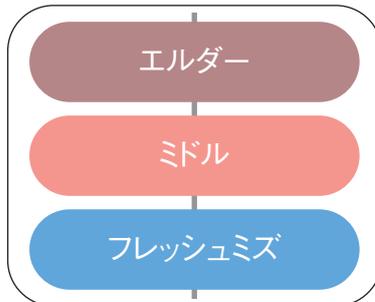
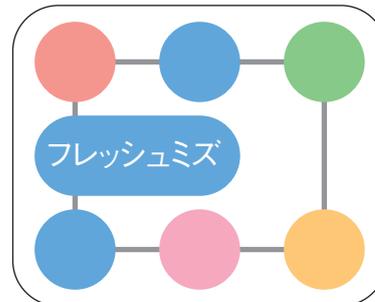


2 さまざまな形で組織されています

若妻会と称されていたころもあったフレミズ組織は、さまざまな形態で組織されています。JA女性組織と一体となって活動している組織〈一体型〉、完全に世代ごとに分かれて活動している組織〈お団子型〉、目的別グループの1形態として活動している組織〈衛星型〉など、さまざまです。現在活動しているフレッシュミズ組織のほとんどが、〈一体型〉〈お団子型〉〈衛星型〉の3つか、その複合型に分類されます。

どの形態で組織化すればよいのか、といった議論がありますが、これは各JA女性組織の実情に応じて組織すべきであり、明確な答えはありません。どのような形態であれ、JA女性組織の活動を次代へつないでいくことができる、「持続可能な組織づくり」に取り組むことが重要になります。例えば〈お団子型〉のように、世代ごとに集まることで、子育てや親の介護など、世代特有の課題を共有でき、同じ視点で課題解決に取り組むことができます。しかし、あまりに世代別で固まりすぎてしまうと、円滑な世代交代を妨げる可能性があります。いきなり一体型の組織を立ち上げることが難しい場合など、フレミズ組織の“はじめの一步”として、このような形態で組織されることがあります。

多くの場合、JA女性組織の活動が支部単位で行われることから、支部活動の中に、フレミズが女性組織とともに取り組むことのできるメニューを組み込むなど、日ごろから交流できる環境づくりが必要となります。

	一体型	お団子型	衛星型
位置づけ図	<p>女性組織</p> 	<p>女性組織</p> 	<p>女性組織</p> 
説明	<p>一体型の組織では、フレミズ組織とJA女性組織と一緒に活動することが、基本となっている。</p> <p>主な活動単位は、地域ごとに設けられたJA女性組織の支部。</p>	<p>お団子型の組織では、日常的に世代別に活動していることから、エルダー・ミドル・フレミズが交わることは少ない。</p> <p>世代ごとのまとまりが、年を経るごとにそのまま、上の世代の組織に移行していく。</p>	<p>衛星型の組織では、フレミズ組織を、数ある目的別グループの1つとして位置づけている。</p> <p>活動の基本もグループ単位だが、年に数回グループ間で交流会を開催しているところも。</p>

組織づくりに取り組む理由

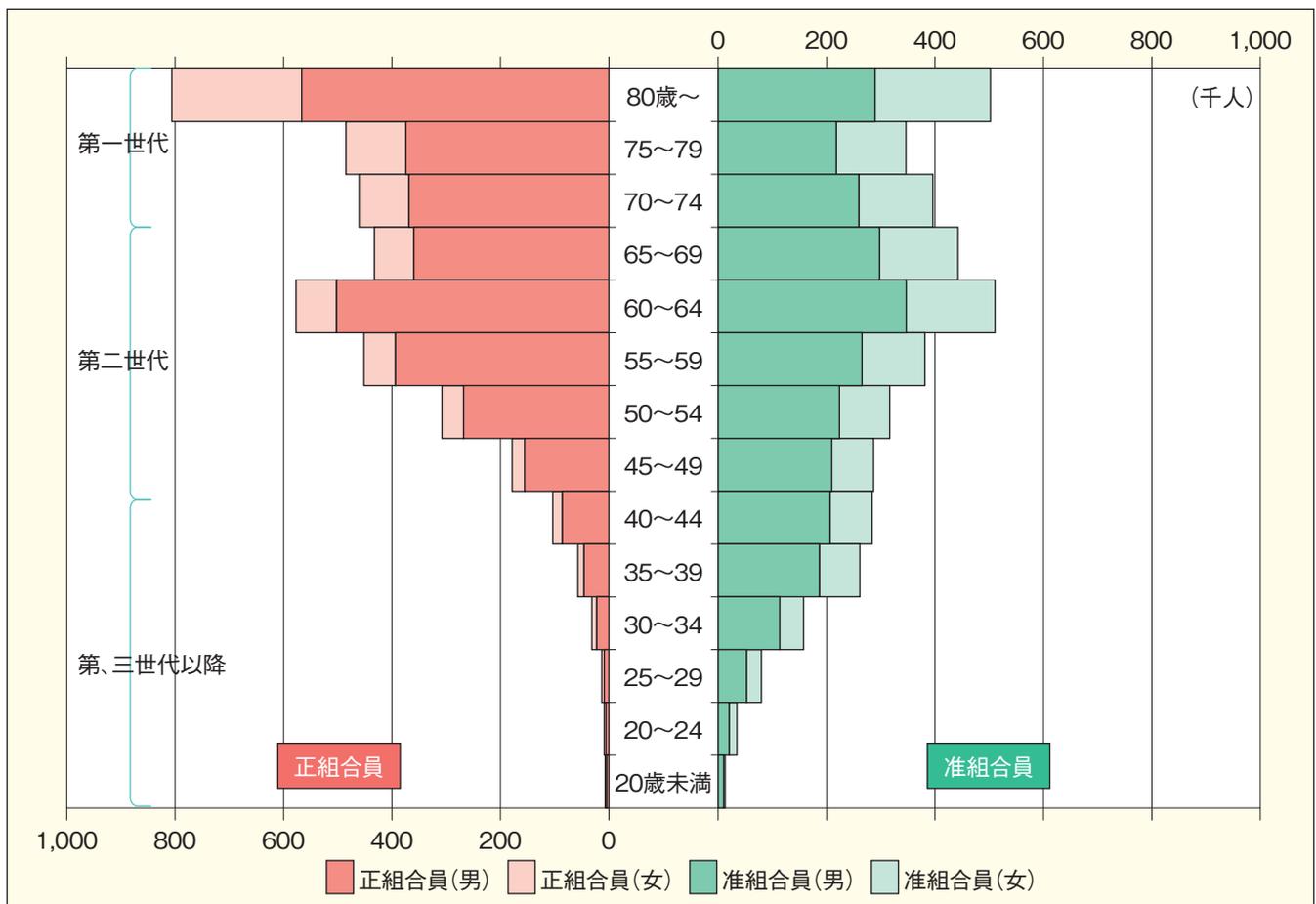
1 JAがフレミズ組織づくりに取り組む理由

昭和10年代生まれまでの、いわゆる「組合員第一世代」が中心となって事業を行ってきたJAグループにとって、組合員第二世代(45～69歳)および第三世代(44歳以下)と呼ばれる、若い世代との関係づくりは急務となっており、各地でさまざまな取り組みを進めています。第二・第三世代において、特にJAとの関係が薄いのが第三世代の女性であり、いかにして若い女性との関係づくりを進めるかが課題となっています。

JAグループは第27回JA全国大会決議に引き続き、第28回JA全国大会決議においても、協同組合の原点である「アクティブ・メンバーシップの確立」に取り組むこととしました。そのためには、組合員組織のJA運営への意思反映をすすめる観点から、青年組織や女性組織メンバー等の理事や総代への就任についての方針を策定し、組合員組織の活性化をはかる必要があります。ただし、ほぼすべてのJAで組織されている女性組織と比べ、フレッシュミズは半分程度しか組織化できていない現状があります。若い世代の女性を取り込むためには、まず組織づくりに取り組む必要があります。

女性組織は、常に新規メンバー加入運動に取り組んでいる組織がほとんどですが、全国的には永らく低減傾向が続いています。若い女性を取り込み、アクティブ・メンバーシップを確立するためには、JAと女性組織がお互いに連携して取り組む必要があると言えます。

組合員の年齢構成表



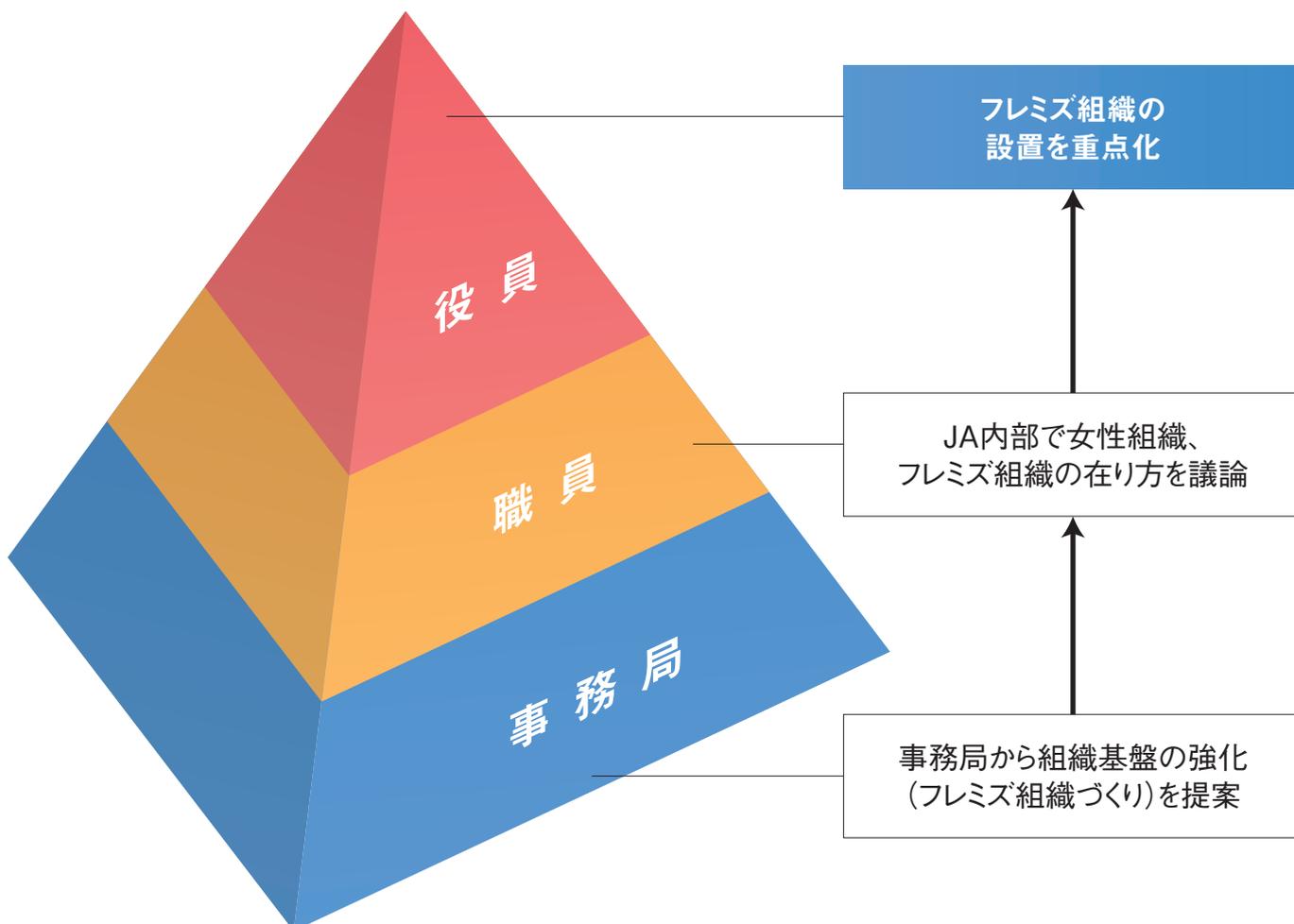
出典:第26回JA全国大会決議資料を加工

事務局発「地域にフレミズ組織をつくろう」

JA女性組織やフレミズ組織などの事務局業務は、担当部署任せになっているJAが多いのが現状です。組織拡大に臨むためには、担当部署の力だけではなく、JA全体の取り組みとすることが重要になります。

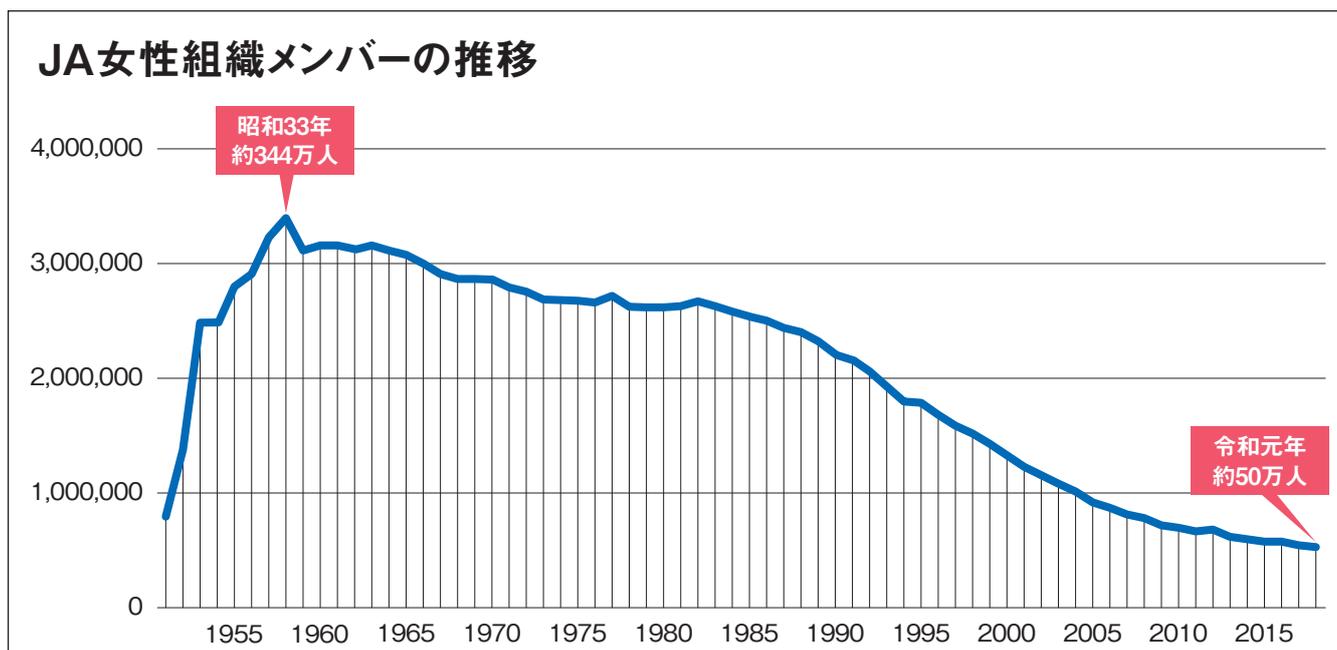
まずはじめに担当者としてすべきことは、「フレミズ組織の在り方」について検討を深めることです。集まってほしいメンバーはどんな人か、どういった活動に取り組んでほしいか、じっくりと検討しましょう。都市部や農村部のように、自分がいる地域の特性に応じて、フレミズ組織の位置づけや組織像が決まります。JA女性組織メンバーとも話し合い、「誰を誘うか」「何をするか」具体的な方向をイメージできることが望ましいです。

おぼろげながらも自分のなかであるべき姿がイメージできたら、周囲の人に伝えていきましょう。自分が持つイメージをJA全体で共有できるようにしましょう。JAの理事や総代など、JA運営の意思決定に携わっている方々が組織づくりを意識できるようになると良い効果が生まれます。JAとして「フレミズ組織づくりに取り組む」姿勢が明確になれば、担当部署だけでなく、各支所(店)も組織づくりに取り組むようになります。そのためには、JAの事業計画に「フレミズ組織づくりに取り組む」ことを明記することなどが必要になるでしょう。



2 JA女性組織がフレミズ組織づくりに取り組む理由

JA女性組織は伝統食を次代へつないでいく活動を進めていますが、組織自体を次代へつないでいくことに黄信号が灯っています。役員のみならず手不足や、活動のマンネリ化、農家数の減少などもあり、最盛期の昭和33年には約344万人いたメンバーは、現在約50万人（令和元年12月）まで減少しています。



※JA全国女性協調べ(各年度調査より)

平成27年度の「JA女性組織活動実態調査」では、ミドルおよびエルダー世代のメンバーが減少したとする組織は、それぞれ51.6%、52.4%となっていますが、フレミズ世代については減少したとする組織が30.1%と他の世代と比べて少なく、また増加した組織は他の世代に比べて多く、一定の成果が見られます。しかし、全体ではメンバーの減少に歯止めがかかっていないのが現状です。

他の世代に比べてメンバーが少ないフレミズ世代ですが、調査結果にもあるとおり、まだまだメンバーを増やせる余地がある世代とも言えます。子育て中の方が多世代でもあり、食の安全に関心が高い女性が組織活動に加わることで、わたしたちの取り組みに新風が吹き込まれるのではないのでしょうか。

高齢化・メンバーの減少に悩む女性組織は多いですが、発掘の余地がある世代に目を向け、声をかけ、マンネリ化した活動に刺激を与えるとともに、女性組織全体の仲間づくりを進めましょう。

	増えた	ほぼかわらない	減った
フレミズ	19.8%	50.1%	30.1%
ミドル	10.5%	37.9%	51.6%
エルダー	11.1%	36.5%	52.4%

出典:JA女性組織活動実態調査(平成27年度)

JA女性組織発「リーダーを見つけよう」

フレミズ組織がなくても、JA女性組織は活動していることが多いでしょう。まずはJA女性組織を中心として、若い世代を対象とした「女性大学」や「あぐりスクール」「ちゃぐりんフェスタ」などの開催に取り組ましましょう。とにかく、若い女性との関係を創ることが先決です。

JA女性組織が取り組む食農教育

ちゃぐりんフェスタの 開催・協力	農業教室の 開催・協力	消費者との 交流イベント	あぐりスクールの 開催・協力
41.2%	39.4%	37.4%	32.5%

出典:JA女性組織活動実態調査(平成27年度)

女性の集まりの場合では、普段の活動の中からリーダーを発見できることがあります。若い女性の中には、誘われて参加したイベントでも、趣旨に共感できれば途端に積極的になる場合があります。

活動の中で積極的な人が見つければ、JAとの関係を深める段階に移ります。ここでは、頼りになる人の懐へ飛び込むことが必要です。地元テレビ局やJA広報誌などが、活動の取材に来ることが分かったときは、事前に取材を受けてもらうよう頼んでみるのが有効です。

また、イベントの感想や、実現したい希望などを個別に聞いてみるなど、「頼りにされている」「リーダーとして期待されている」ことを雰囲気伝えていくことが重要です。またイベントに参加した人の中から見つけるだけでなく、農家に嫁いだ女性に声をかけたり、JA職員の子どもなど、血縁からリーダーを探していくことも必要になるでしょう。

やる気のある女性を勇気づけるためにも、他地区のリーダーと交流するなど、地元以外の情報に触れることで、新たなヒントが得られることもあります。ひとりだけにすべてを任せるのではなく、協力できる人を多く見つけてください。



JA女性組織フレッシュミズ全国代表者会議

年1回、全国からフレッシュミズ組織のリーダーが集まり、情報交換と交流を行っています。普段は会うことのできない地域のフレミズとの出会いは、活動に幅を広げるチャンス。リーダー候補には参加を呼び掛けてみては。

たちあげよう

1 まずはJAの存在をアピール

組織の立ち上げについては、事務局の果たす役割が重要になります。JA女性組織の運営に携わっている事務局が、一歩踏み出すことが求められます。組合員組織等の事務局の経験年数は関係ありません。例えば、生産部会の事務局を長く務めた人なら、新しい組織を作っていくうえでの課題を把握できているでしょうし、初めて事務局を務める人なら、新鮮な視点で組織づくりに取り組むことができるでしょう。

組織の立ち上げに気負うあまり、普段JAとの関りが薄い女性に対して、いきなり「フレミズの組織化」と言っても理解してもらえないでしょう。組合員や地域住民がJAに集い、運営に参画するようになるまでには、一般的に「認知・利用・参加・参画」の4段階を踏む、と言われていています。「認知」の段階では、いかにターゲットを絞り込むかにより、結果が大きく変化します。新聞広告の出稿など、マスメディアを利用した広報活動には、大勢の人に情報を伝えることができますが、JAに興味がない人も対象になるため、多額の費用をかけても効果は未知数です。近年では、SNSを活用した広報活動に取り組む組織もあります。この段階では、広告出稿やSNSでの発信などを続けても効果が表れないこともあります。短期的な成果を追い求めることなく、継続して取り組むことが重要です。

また、女性組織事務局は、担当部署のみで担っていることが多いですが、成果が見えづらい段階のため、他部署・他部門の人たちに理解してもらうことが必要になります。

女性を集めるためには、口コミが効果的です。口コミだと、日ごろの人間関係がベースとなっているため、初めて活動に参加する女性にとって、ハードルを低くする効果もあります。



JA全国女性協
フレミズ
フェイスブック



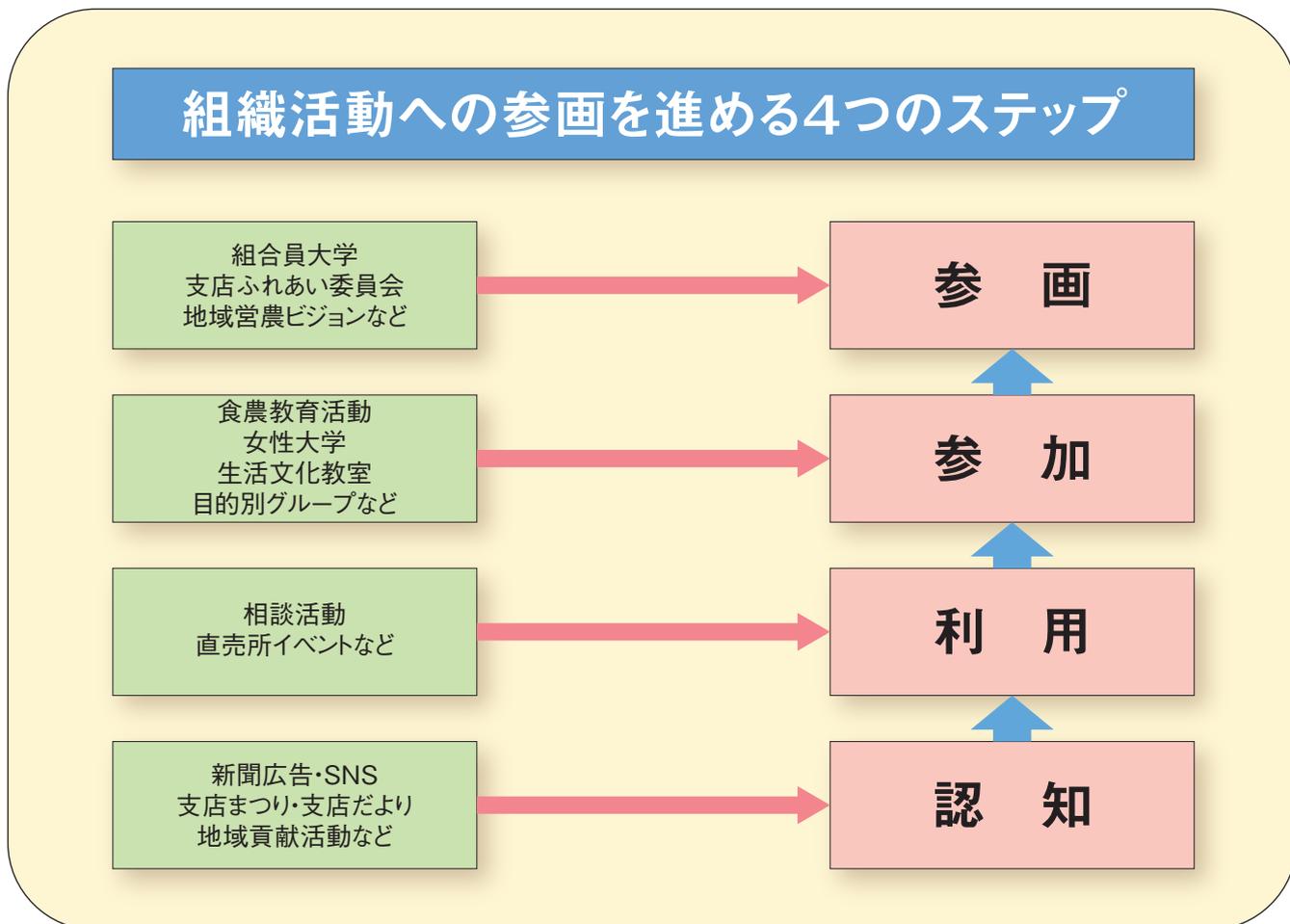
認
知



2 JAの利用から組織活動へ参画

「利用」の段階は、エコープ店舗などのJA施設の利用や、JA女性大学や、あぐりスクールなどの出席者を限定した講座の受講が該当します。JAの存在を認知した地域の若い女性に、JAへの理解や親しみを深める段階です。組織づくりと事業利用を結びつけるたいせつな時期ですが、この段階で事業利用を促しすぎると、誤った理解を与えかねないデリケートな時期でもあります。4段階の中で、一番難しいと言っても過言ではありません。また、この段階はリーダー候補を探す段階でもあります。人を引っ張る迫力や、人を惹きつける魅力などは、雰囲気でも伝わるものです。この時期に、上手に組織リーダーの就任を期待していることを伝えられると、次の段階へスムーズに移行できるようになります。

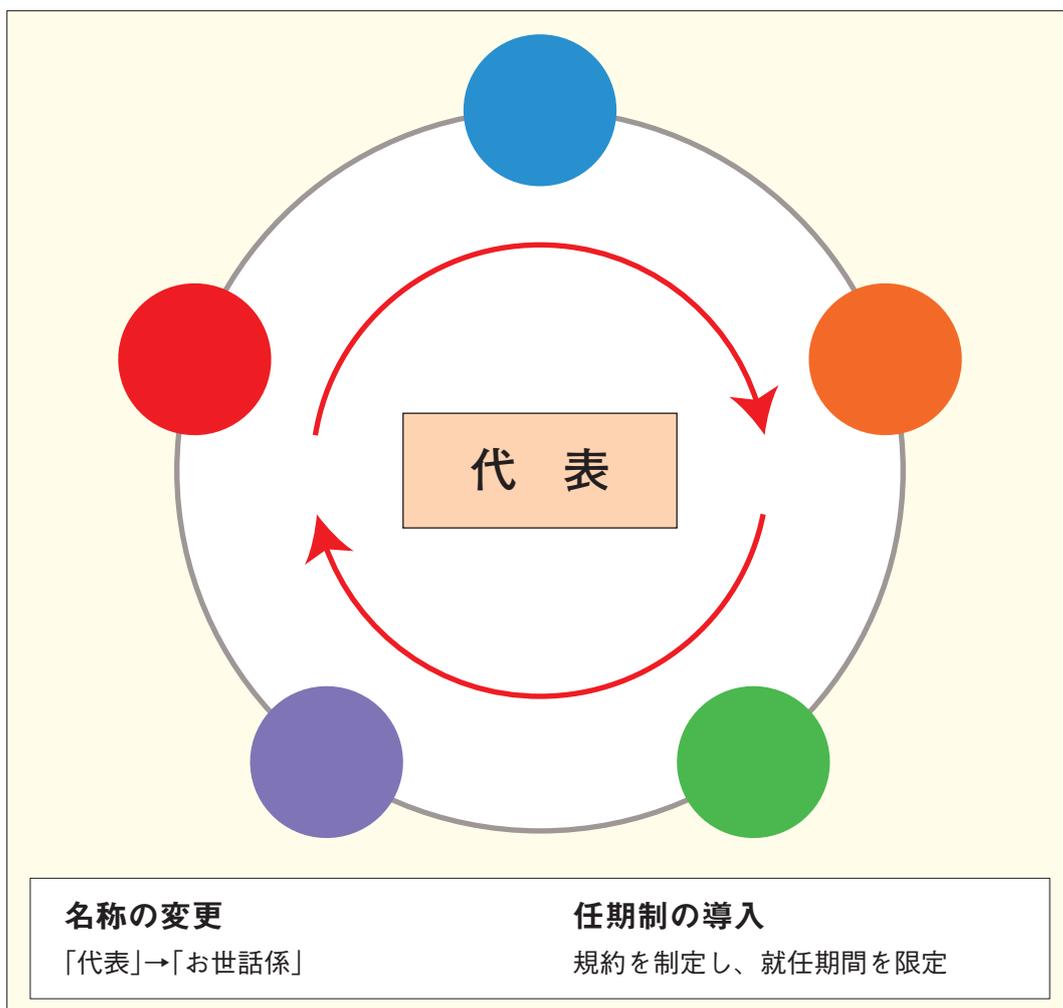
「参加」「参画」の段階に入ると、参加者自ら積極的に行事の企画・運営に携わるようになります。事務局の関わり方はさまざまです。参加者同士が意見を出し合い、自立して活動を進める組織があれば、事務局の提案により活動が進む組織もあります。事務局は「フレミズが主役」との気持ちを忘れずに、必要なサポートを行いましょ。ここでの活動は仕事としてではなく、個人的なつながりが生まれる、貴重な時期でもあります。フレミズの意見を尊重し、組織活動の支援を行ってください。



3 「役」の振り方

代表や会計責任者など、組織の運営には必ず「役」が必要になります。しかし、役を引き受けるフレミズが少ないのが現状です。役を引き受けてもらう仕組みづくりに苦勞するところですが、各地のJA女性組織で様々な工夫をして、組織運営にあたっています。代表は輪番制とし、特定の個人に負担がかからないようにすることでフレミズの理解を得る努力をしている組織や、代表という肩書を「お世話係」としたところ、部長などの肩書だと重く受け止められていたものが構えずに引き受けてもらえるようになった組織があります。せっかく集まり始めたメンバーを引き留めるには、負担感を軽減し、「負担が特定の人に偏らない」「ゆるやかに、気軽につながる」ことがポイントです。連絡網や打ち合わせはSNSを活用し、便利な道具はすぐに使い始めましょう。

ただし、自らリーダーとして活動しているフレミズに対しては、積極的に役割を振りましょう。自らの組織行事の企画立案だけでなく、都道府県段階の行事への参加や、全国段階での活動への参加を促し、見分を広げてもらうことで、活動を進めるうえでのヒントが得られますし、日ごろ接することのできない地域のフレミズと交流を深めることで、新たな視点を獲得できる可能性があります。



4 計画づくりは楽しく、ひと工夫を

「自分たちがやりたいことを実現する」ために集まることの多いフレミズ組織のメンバーは、アイデアをたくさん持っていることが多いものです。計画づくりのための会議を開催し、意見を出し合いましょう。会議という名称にこだわらず、「お茶会」「ランチ会」など、参加しやすい会議の名前にすると良いでしょう。事務局の立場から企画を提案しても構いません。「やりたい」という声が多い企画を中心として、「できる」活動に取り組みましょう。七夕飾りづくりやクリスマスリースづくりなど、季節感のある企画ならイメージがつきやすいでしょう。

また、メンバーの中には農業以外の仕事を持っていたり、子育てに忙しいなど、やりたいことを実現するための時間がないことが多いのもフレミズ世代の特徴です。同じ農家でも、栽培品目によっては繁忙期が異なるため、なかなか全員が集まることはできません。計画を立てるときには、なるべく全員が参加できる曜日を設定しましょう。日中か夕方以降にするかなど、時間帯まで決めることができれば、なお良いでしょう。リーダーと事務局が、心を配る必要があります。

しかし、あまりにも「全員参加」にこだわりすぎてしまうと、活動が前に進みません。フレミズ組織のメンバーは、毎日の仕事や家事、子育てに追われていることが多いもの。フレミズ活動を楽しく意義のあるものにするために、無理のない範囲で達成感を感じられる計画を立ててください。

計画づくりをすすめる4つのポイント

(1) まずはアイデア出し。自由な意見を出し合える、雰囲気づくりを。

「役員会」「理事会」 → 「お茶会」「ランチ会」

物事を決定する会合と、フリートークで進める会合をはっきりと区分して。

(2) 物事を決める会議では、時間を決めてキビキビと進行を。

なるべく全員が集まれるように日程を調整し、決まった時間に始めて決まった時間に終われるよう、進行に心配りが必要

(3) 目的を明確に。

イベントの日程調整、内容の確認、役割分担など、議題が幅広くなるときは、議題を細かく区切り、議論が迷走しないように

(4) 結論を出す。

どんな内容でも必ず結論を。「次回の会合で結論を出す」という結論でも。

あつめよう

1 夏休み、冬休みは絶好のリクルート期間

各地のJA女性組織にて、子どもたちの夏休み、冬休みの時期に「ちゃぐりんフェスタ」などの親子向け行事を開催しています。地域の家族連れが大勢集まるので、フレミズ組織をPRする絶好の機会です。このような行事をすすめるには、フレミズ組織メンバー自らが企画することが重要です。「どういったイベントを企画するか」「そのためにどんな準備をするか」など、決めなければいけないことはたくさんあります。準備を一つひとつクリアしていくことで、達成感が生まれ、メンバー同士の連帯感も生まれることでしょう。

納得して準備を進めることができれば、イベント当日は雰囲気よく開催できるはずですが、参加者にしても、主催者が楽しそうにしていれば、その組織に興味を持つことでしょう。事務局はあくまでも補佐役として、メンバーみんなが発言しやすい環境づくりに心を配るなど、雰囲気を盛り上げることに専念すべきでしょう。

親子向けイベントには、母親と子どもだけでなく、父親や祖父母など、家族全員を対象にすることは必須となります。エコープ店舗などを開催場所にすることで、事業利用に結び付けることも可能です。また、イベントを途中で保護者向けと子供向けの2つに分け、この時間に事業利用やフレミズ組織への加入を呼びかける例もあります。

カリキュラム(例)

時間	内容
10:00	開会、あいさつ
10:10	工作教室
11:00	【子ども】料理教室 【保護者】フレミズ組織説明会等
12:00	昼食
13:00	閉会



2 「JA女性大学」は人材の宝庫

各地のJA女性組織で、JA女性大学を開講しています。JA女性大学の目的は、「地域農業やJAのファン」づくりを積極的にすすめていくことです。女性の正組合員が学習を深めることで、役員や総代に立候補することが期待できます。また、組合員家庭の若い女性はフレッシュミズや女性組織リーダーの予備軍であり、地域の若い女性や消費者は女性組織メンバーや准組合員になる可能性を持っています。JA女性大学の対象者は、女性組合員や組合員の家族、女性組織メンバーに限定するのではなく、広く地域全体に呼びかけることがたいせつです。

一方で、「若い女性リーダー」の育成を目的としている事例が増えています。JAのことを何も知らない女性にとって、いきなり「JA女性組織」「フレッシュミズ」を説明しても理解してもらえない可能性があります。そこで、複数回の講座を通してJAやJA女性組織の理解を促し、入会に結び付けるJA女性大学が有効になります。

JA女性大学を開講する際は、幅広いテーマ設定をすることが重要になります。健康や美容、安全・安心な食など、普段の生活に関することはもちろん、子どもの進級や進学を見据えたライフプラン樹立などをテーマとすると良いでしょう。女性組織担当部署だけでなく、JAの信用・共済部門など、他部署との連携を通じて受講生のニーズに応え、JAの総合力を発揮することが求められるでしょう。

カリキュラム(例)

日時	内容	担当	備考
4月	開講式	組合長、常勤役員	
6月	料理教室	営農・生活部門担当者	
8月	親子料理教室	女性組織事務局	ちゃぐりん購読を呼びかけ
12月	ライフプラン研修	信用部門担当者	貯金・共済利用を呼びかけ
2月	健康講話	JA厚生連病院担当者	厚生事業の利用を呼びかけ
3月	閉校式		



もりあげよう —各地の事例から—

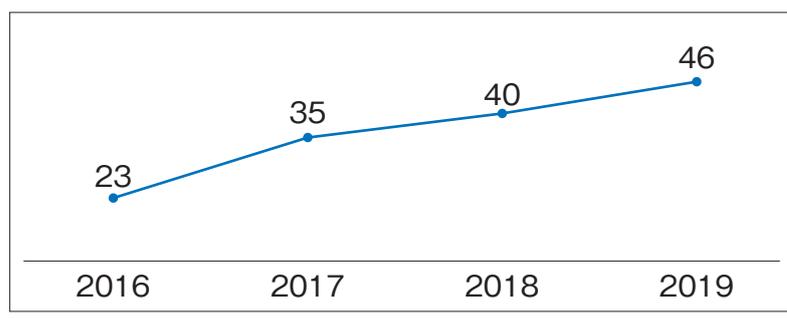
1 長崎県JA長崎せいひ女性部

長崎県JA長崎せいひ女性部は19支部で組織されており、その中の長与地区に「フレッシュミズたんぼぼ会」があります。以前は部長を中心に運営していましたが、現在は副部長も交えた運営に変更しており、特定の個人に負担が偏らない運営方式になっています。組織活動を長続きさせる秘訣として、負担を分散させる仕組みにしています。部長就任は45歳までと年齢制限を設け、定期的な役員の入れ替えを行っています。参加資格は農家に限定せず、現在は非農家のメンバーが役員を務めており、農家以外の女性が参加しやすい雰囲気が醸成されています。地区外の女性でも入会できるようにし、参加のハードルを下げることに工夫をこらしています。

当JAでは、JA役員とフレミズの距離が近く、JA役員の畑を利用した菜園活動を行っており、部員増員および定着化に功を奏しています。フレミズ部員がこの菜園活動や、他の部員の農園に手伝いに行くことで農業のすばらしさを実感し、自主的に部員勧誘活動を行った結果、2016年には23名だった部員が、2019年には46名と倍増しました。途中の2017年には地域の祭りにもフレミズとしてブースを出展し、活動の幅を広げています。JA事務局は経理面のサポートを行うのみで、メンバーが自立した運営が実現しています。たんぼぼ会は地区外からも参加者を受け入れているので当JAでは長与地区以外でフレミズ組織が設置されていません。今後は長与地区以外でフレミズ組織を立ち上げるべく、仲間の輪を広げていく予定です。



部員数 46人			
農家	9人	45歳以下	11人
非農家	37人	45歳超	35人



2 長崎県JAながさき県央女性部

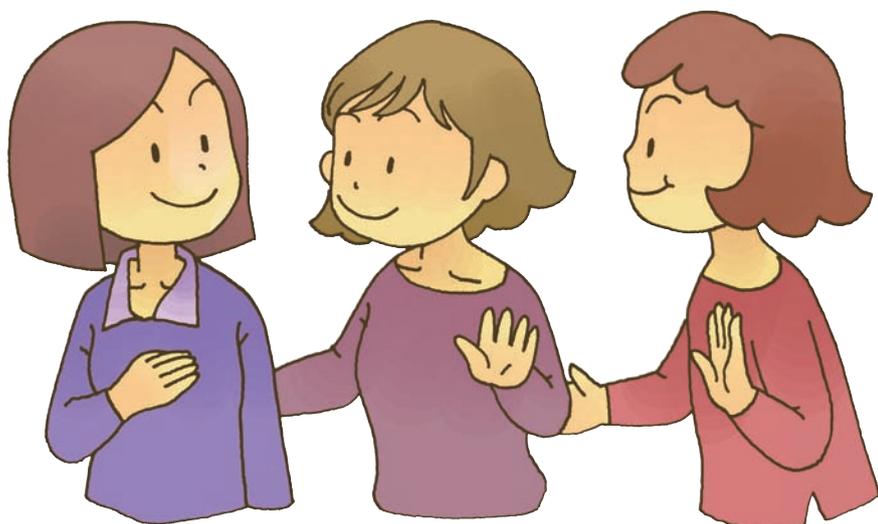
長崎県JAながさき県央では、平成28～30年度3カ年計画に「全支店でフレミズ組織」設置を明記しました。平成31年3月に開かれた第28回JA全国大会に先駆けて取り組みを始めています。これはJAながさき県央女性部長と事務局の、女性組織が置かれた現状を打破しなければ将来が立ち行かなくなるとの危機感から取り組んだものです。

3カ年計画初年度である28年度は、事務局による設置支援を行いました。翌29年度には、JA役員による進捗確認が行われました。30年度に入ると、最終年度であったこともあり、フレミズ設置の取り組みが本格化。前半は支店の女性組織担当者による声掛けを行い、後半では設置を実現できない支店では、支店長自らが取り組み、3カ年計画を達成することができました。JA役員が以前に女性組織を管轄する部署の責任者を務めていたこともあり、JA全体で取り組めたことが成功の要因です。

JAが3カ年計画に明記したことで、事務局単独の取り組みから、支店を巻き込んだJA全体の取り組みとなり、女性組織全支部にフレミズ組織を結成することができました。各フレミズ組織の代表は輪番制とし、特定の個人へ負担が集中しないよう軽減を図っています。各支部にフレミズ組織がつくられましたが、メンバーの拡充はこれから。「仏像は作った、今後は魂を込める時期」との認識のもと、今後は全支部のフレミズ組織が一堂に会する記念行事の実施を視野に入れ、活動を活発にさせることとしています。

JAながさき県央女性部

	平成29年度	令和元年度	増減
メンバー数 (うちフレミズ)	2,156名 (68名)	2,167名 (135名)	11名 (67名)
支部数 (うちフレミズ)	16支部 (8組織)	16支部 (17組織)	±0支部 (9組織)



JAを挙げてフレミズ組織設置に取り組み、JA女性組織全支部にフレミズ組織を設置

3 島根県JAしまね

JAしまねでは各地区本部（JAしまねでは旧単組を地区本部としています）の女性を対象としたJA女性大学を開講しており、受講生のOG会を結成し、それぞれが活動を行っていました。

フレミズ組織未結成の地区本部においては、県事務局と地区本部事務局が協力し合い、OG生に女性部とフレミズ部会について説明し、十分に理解してもらいました。そしてOG生自ら組織結成に向けて活動していくよう促し、フレミズ組織結成につなげました。

やすぎ地区本部

やすぎ地区本部では、女性大学を開講して10年が経過したこともあり、平成30年12月に「第1回JAやすぎ女性部フレッシュミズ部会立ち上げPJ（プロジェクト）会議」を開催し、フレミズ組織設置に向け取り組みを始めました。PJメンバーは、期別の女性大学OG会から各2名ずつ参加者を募りました。ここで話し合われたことは、OG会を発展的に解消し、新たにフレッシュミズ部会として結成することでした。次に入会希望者の取りまとめ、規約制定の必要性や、今後の日程などについて協議しました。平成31年1月には女性大学の講座に併せてOGを招いた交流会を開催し、フレミズ部会への入会を呼びかけ、2月には第2回会議を開催するという日程で、スピード感を持って進めました。

会員資格を49歳までとしています。50歳以上の会員は2年間に限って参加できることとし、将来の展開に含みを持たせています。年齢制限についてはデリケートな問題であり一度に解決するものではありませんが、女性大学をフレミズ組織へ昇華させることができました。

12月	1月	2月	3月	4月
12/6 第1回PJ会議	1/16 女子大交流会	部員の確定	規約・活動案	JAやすぎ 女性部総会
PJメンバー 顔合わせ	フレミズの説明	名簿づくり	規約の作成	4/21 フレミズ部会 設立承認
日程確認	申込用紙配付		活動案づくり	
1/16女子大 交流会の説明		役員人数の 決定		
OG会メンバー 割り出し	部員の確定	役員の推薦、決定、 規約の作成		
女子大交流会 開催案内送付				

県域でのフレミズ活動

JAしまねには11の地区本部があり、それぞれで女性組織が活動しており、女性大学も地区本部ごとに開催しています。県フレミズ役員が主催する活動はこの地区本部の枠を外し、部員はもちろんのことJA女性大学受講生・OGにも参加を呼びかけています。

こうした活動の目的のひとつは地区の枠を超えた交流ですが、もうひとつの目的はフレミズ組織が結成されていない地区での結成を促すものです。事務局は活動当日の班分けを工夫し、フレミズ組織未結成の地区の参加者と、すでに結成されている地区の参加者および県フレミズ組織の役員が同じ班になるように分けました。事前に開催目的と参加を呼び掛ける対象者を明確にすることが功を奏し、交流する中で未結成の地区においてフレミズ組織の必要性が理解され、新たなフレミズ部会がいくつも結成されました。

また、フレミズ活動への参加資格を参加者の家族まで広げ、フレミズ活動に対する家族の理解も深まり、フレミズ会員が活動に参加しやすい環境づくりも心掛けています。

PJ会議を経てフレミズ組織が立ち上がりました



PJ会議にて議論・和やかでスピーディ



JA女性組織の活性化に向けて

JA女性組織活性化調査の実施

JA女性組織のメンバーは毎年減少しており、特に30歳～50歳代のメンバーは全体の30%にとどまっています。JA女性組織が今後も元気な組織として活動を続けていくためには、次世代のメンバーを増やすことが必要不可欠です。

JA女性組織を活性化するためにはどうすべきか…。この課題の解決の糸口を探るため、JA全中では、平成30年度に「JA女性組織活性化調査」を行いました。

ここでは、メンバーが減少する要因をコミュニケーション不足によるものと仮定し、その解決策について検証しました。その結果、メンバーの関係の質を上げるためには「対話の質を上げること」が必要であるとの結論を得ました。

調査の概要

東西2地区からJAを選定し、それぞれ3回のワークショップ・会議を行い、仮設の検証を行いました。

東日本:岩手県JA江刺女性部	西日本:大阪府JA大阪市女性会
日程 平成30年8月30日 平成31年1月25日 平成31年3月15日	日程 平成30年9月3日 平成31年2月5日 平成31年3月5日

第1回 今後実現していきたい未来や現在の魅力を言葉にし、他メンバーとともに実現したいと思うことを言葉にしました

第2回 異なる世代の参加メンバーと話し合うことで新たな活動の視点を発見しました

第3回 これまでの対話をふまえ、JA女性組織メンバーだけでなく、参加してほしい層の当事者も交えて話し合うことの重要性を確認しました

対話の必要性

今回の調査では、上記のとおり日ごろ意識していることを、対話を通じて言語化することで課題を明確にすることを心がけ、従来の話し合いでは見受けられなかったポイントを発見しました。

①JA女性組織の活動を、自分の言葉として言語化して伝えること

②実現していきたい未来像を共有し、目標を共有して話すこと

③参加対象者(若い世代)の思いや現状を知ること

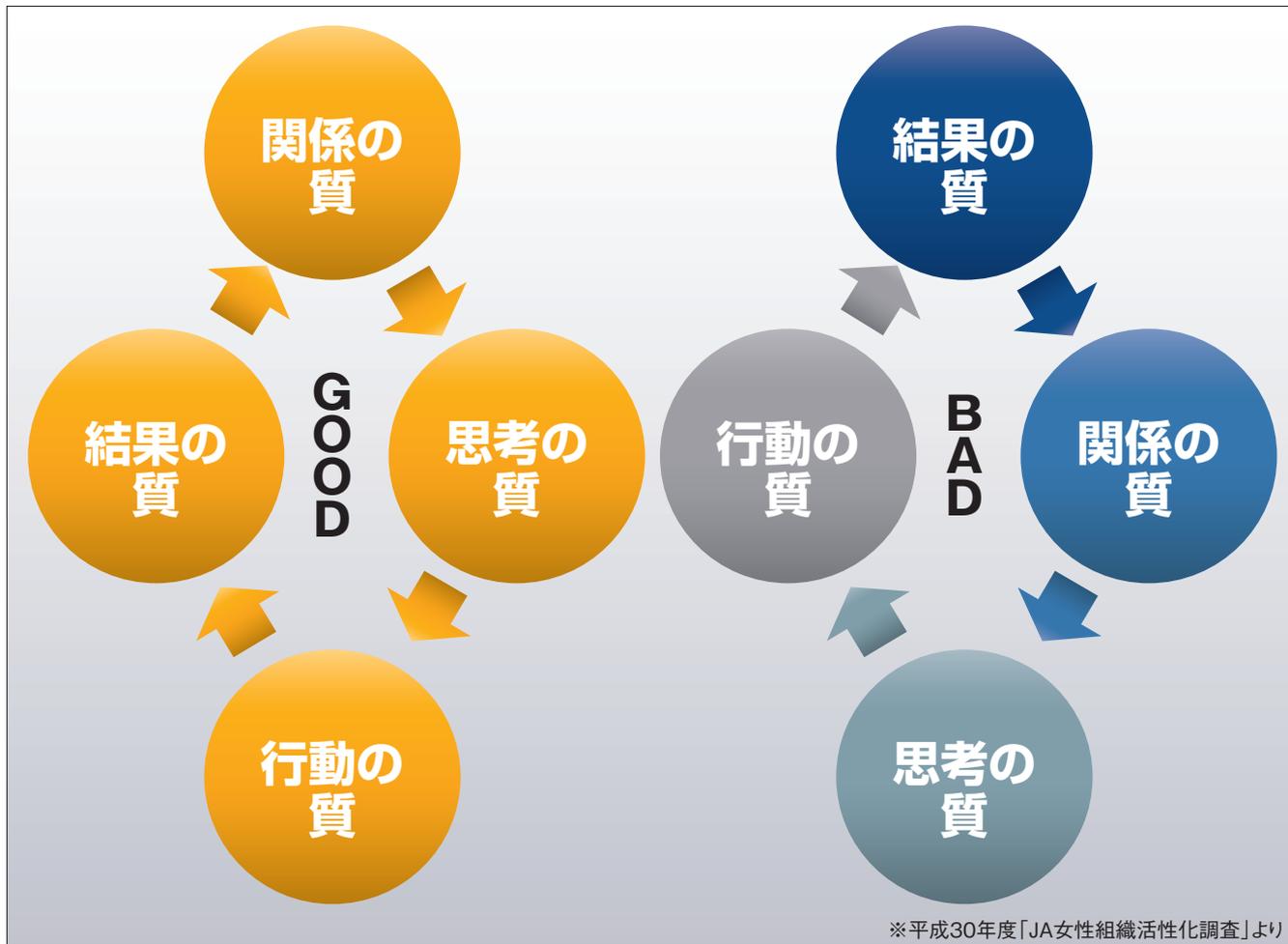
今回の調査では、コミュニケーションの質を向上させる(=対話の質を上げる)のに効果的だった方法として、下記の3点が重要であるとの結論を得ました。

①互いのことを理解するために、対話型での話し合いを行うこと

②個人が発言できるよう、グループ人数を少なく(5名以下)に設定し行うこと

③空想で議論するのではなく、実際に対象者を招いて対話を行うこと

JA女性組織活性化のために



上図は、マサチューセッツ工科大学のダニエル・キム教授が提唱する「成功の循環」です。これは組織内の関係の質が高くなると、思考の質が上がり、それが行動の質を高め、さらに結果の質につながり、その循環によりますます関係の質が高まることを指しています。そして、この循環を作り出すために組織内で効果的な対話を行っていくと、この循環がうまく回りだすと言われています。

そのためには、

- 対話を通じた話し合いによる、関係の質の向上を目指すこと
- 参加者がオープンに想いや経験、背景を語り全員がその話に真摯に耳を傾け対話をする事

を実践することが必要です。フレミズ組織を活性化させようとするならば、メンバー同士が自由に話し合うことができるよう心がけてみてはいかがでしょうか。

地域で輝くための5つの



1 食を守る ★

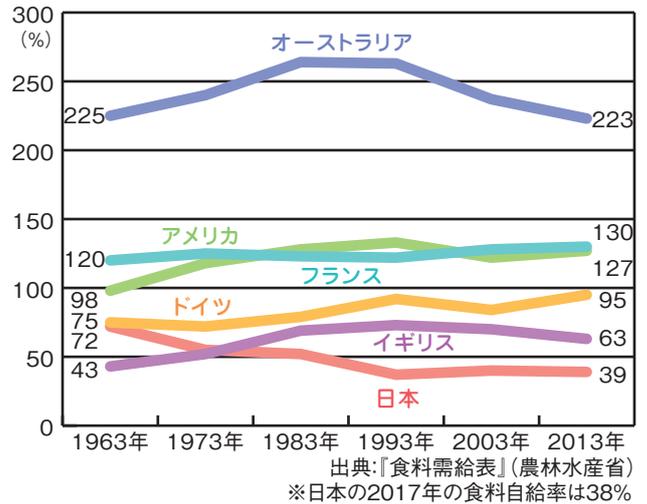


- 食料自給率の向上に向けた運動を展開します。
- 安全安心な食について学習し、情報発信します。
- 地産地消の推進、伝統食の継承をすすめます。
- 食品ロス削減に取り組みます。

日本の食品ロスと世界の食糧援助量



日本と主要国の食料自給率の推移



2 農業を支える ★



- 農業を取り巻く情勢について学習、情報を発信します。
- 農業の理解促進のために食農教育に取り組みます。
- 家族農業に対する理解を深めます。

農業就業人口の減少と女性の割合

(単位:万人、%)

	2000	2005	2010	2015	2018
農業就業人口	389	335	261	209	175
女性の割合	55.7	53.3	49.8	48.1	45.7

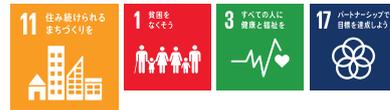
出典:『農業センサス』(農林水産省)

農業経営体に占める家族経営体の割合

	日本	EU	米国
割合	97.6% (2015年)	96.2% (2013年)	98.7% (2015年)

出典:『農業センサス』(農林水産省)

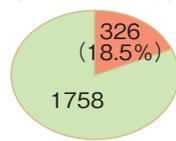
3 地域を担う ★



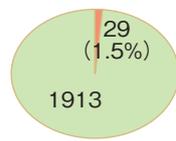
- メンバーによる地域の居場所づくり、行事の維持などを通じて地域を支えます。
- 防災に対する意識を高め万一の備えを万全にします。
- 地域における協同組合間の連携、他団体との交流を通じて、活動の輪を広げます。

世界でも災害が多い日本

マグニチュード6.0以上の地震回数 (2003-2013年)



災害死者数 (1984-2013年)



世界 (緑) 日本 (赤)

活火山数



災害被害金額 (1984-2013年)



単位: 千人

単位: 億ドル

地域における社会、生活の拠点数

JA店舗施設	16,419 (7,857※1)
郵便局数	24,011※2
小学校数	20,095
公民館数	14,171

出典:『平成30年度全JA調査調査結果』(JA全中)『日本郵政ホームページ掲載資料』『平成30年版文部科学統計要覧』(文部科学省)『平成27年度社会教育調査』(文部科学省)

※1 信用事業を取り扱っている店舗の合計数
※2 簡易郵便局含む

具体的活動

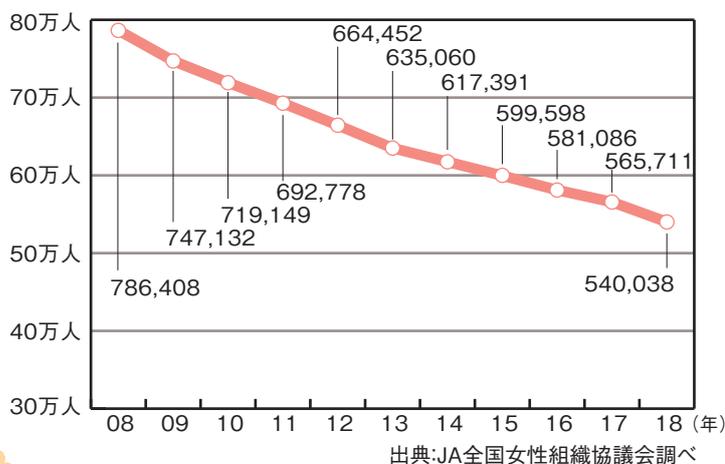


4 仲間をつくる ★

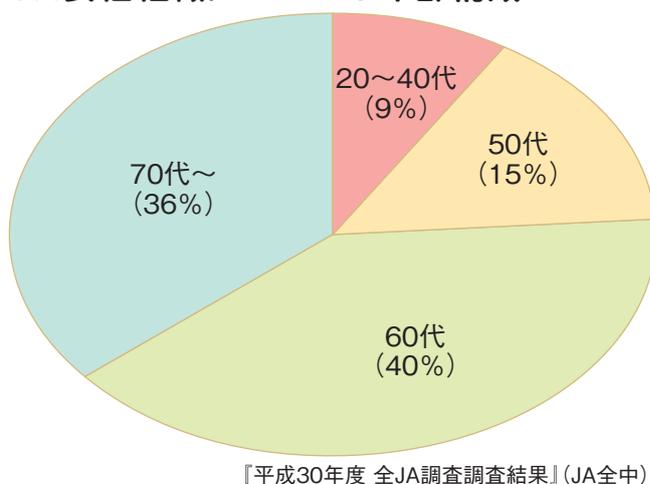


- 次代のリーダーを育成し、全組織でフレミズ組織を設置します。
- 幅広いメンバーの拡充をはかり世代間交流をすすめます。
- JA女性組織の活動を充実させ、情報発信します。

JA女性組織メンバー数の推移



JA女性組織メンバーの年齢構成

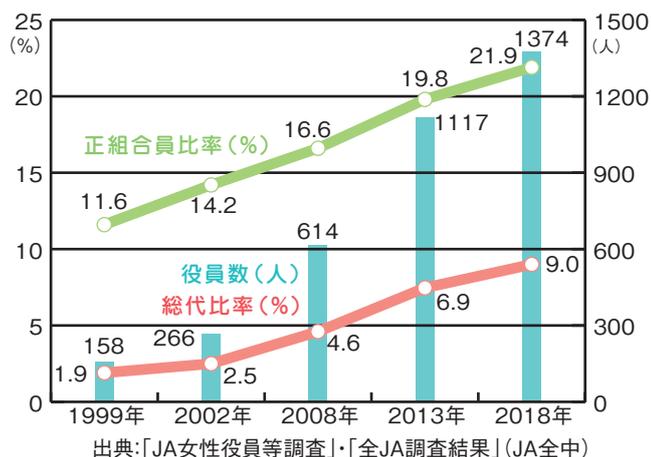


5 JA運営に参画する ★

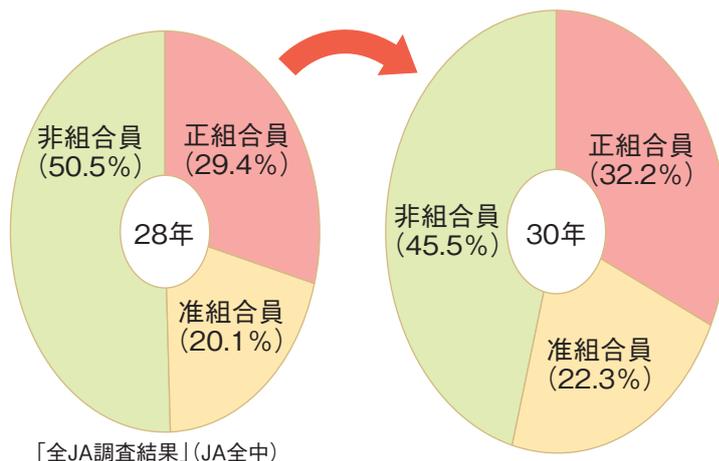


- JA役職員との対話(積極的な交流、情報交換)を強化します。
- 支店運営委員会など各種委員会への参画をすすめます。
- JA運営参画目標である「正組合員30%以上、総代15%以上、理事等15%以上」を目指します。
- 女性組織メンバーの全員が正・准組合員となることを目指します。

JA女性組織メンバー数の推移



JA女性組織の組合員加入状況



むすびに

JA女性組織は、「次代のリーダーを育成し、全組織でフレミズ組織を設置します」と3カ年計画に明記しています。JA女性組織を支える担当者みなさんは、自身が受け持つJA女性組織に、どのようにしてフレミズ組織を立ち上げるか、日々悩んでいることでしょう。若い女性のパワーを受け入れ、取り込めるように環境を整えることが、今こそ必要です。

JA女性組織3カ年計画を着実に実践していくため、参考としていただける手引書の作成をめざし、先進的な取り組みをされている現場の担当者の皆さんやフレミズ組織メンバーの方々からお話を伺い、様々なヒントやアドバイスをいただきながら、手引きを発刊いたしました。

この手引きが、フレミズ組織設置の一助になれば幸いです。全国各地でフレミズ組織が立ち上がることを願ってやみません。

SDGsの17の目標



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



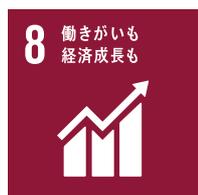
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



すべての人のための継続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する



強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



国内および国家間の格差を是正する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止を図る



持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる